

# 長崎県高等学校新人体育大会弓道競技規則

平成 8年 10月制定  
平成 13年 10月改正  
平成 18年 6月改正  
平成 19年 7月改正  
平成 26年 12月改正  
平成 29年 10月改正  
平成 30年 6月改正

## 1 競技種目及び人員

- 種目 近的競技  
種別 男女団体戦・個人戦  
人員 (1) 団体 監督1名、選手5名、補欠2名、計8名  
(2) 個人 団体競技出場者で、予選2立(8射)した選手  
チームの組めない学校に限り、監督1名、選手4名以内

## 2 射法 立射とする。

## 3 競技方法

団体競技 予選、準決勝、決勝方式

ア) 団体予選は、第1日目に四ツ矢2立で行う。

チーム計40射(各自8射×5人)の総的中数の10位タイチームを予選通過とする。

イ) 準決勝は、第2日目午前に四ツ矢1立、チーム計20射(各自4射×5人)で行う。

予選からの累計チーム計60射の総的中数上位5チームを決勝進出とする。

ウ) 同中により決勝進出チームが決定しない場合は、各チーム1人1射、チーム計5射の競射を決定するまで行う。

エ) 決勝は、リーグ戦とする。決勝リーグの組み合わせの規定は別に定める。

オ) 決勝リーグは総当たりで、1回対戦する。

カ) 決勝リーグの1試合は、各チーム1人四ツ矢1立、1チーム計20射を行い総的中数の多い方を勝ちとする。

同中の場合は、各チーム1人1射、チーム計5射の競射を決定するまで行う。

キ) 順位決定は、勝ち数が多いチームを上位とする。勝ち数が同じ場合は、決勝リーグでの総的中数

(同中競射を除く)の多い方を上位とする。それも同じ場合は予選からの累計60射の的中数の多い方を勝ちとする。それも同じ場合は各チーム1人1射計5射の競射を決定するまで行う。

ク) 行射所要時間を6分とする。

(※行射所要時間とは、進行係の「始め」の合図によって始まり、最後の選手の離れまでとする。)

5分30秒で予鈴を鳴らす。6分で本鈴を鳴らす。本鈴後に離れた矢は無効とする。

(予鈴が鳴っても、順立ちをくずしてはならない。)

ケ) 弦切れ等の事故が生じた場合には、そのチームのみ7分とする。

コ) 後立ちの者は、前立ちの者より前に矢を発した場合は無効とする。

サ) チームが本座に入ったとき、間に合わなかった選手はその立ちのみ欠員とみなし、チームは欠員のままで団体とみなす。

個人競技

ア) 予選2立(8射)行射した選手を対象とする。

- イ) 順位の決定は、総的中数の多い順とする。
- ウ) 同中の場合は、射詰めにより順位を決定する。
- エ) 行射所要時間は団体戦に準じる。  
他チームとの混成になるので、本鈴で失格とはしないが、立ちの進行を著しく遅らせていると認められた者は厳重に注意する。それでも改めない時は失格にすることがある。
- オ) 後立ちの者は、前立ちの者より前に矢を発してはならない。
- カ) 本座に入ったとき、間に合わなかった選手はその立ちのみ欠員とみなす。

#### 4 選手の変更・交代

##### 予選

- ア) 監督会議の時、団体選手登録者と団体補欠登録者の変更を認める。  
この変更は補欠登録選手1人に対して1回限りとする。  
この場合、変更前の選手の位置に変更後の選手が入る。  
変更後の団体選手登録者は、以後団体補欠として登録する。
- イ) 競技開始後、補欠（個人戦出場者）1名につき1回に限り団体戦選手との交代を認める。  
この交代は、1件ずつ行っても、2件同時に行ってもよい。
- ウ) ウの項の交代は出場30分前までとし、所定の用紙で届け出ること。
- エ) ウの項で交代した選手の団体予選再出場は認めない。
- オ) 所定の交代をした後に選手の事故等が生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。
- カ) 立順の変更は認めない。

##### 準決勝・決勝リーグ

- ア) 準決勝及び決勝リーグでの各立ちは、独立した試合とみなす。  
したがって、各試合前に補欠（個人戦出場者）1名につき1回限り団体戦選手との交代を認める。
- イ) アの項の交代用紙の届け出は不要とする。

#### 5 競技順序

競技は次の順序で行う。（男女の順番はその年度の全国大会に準じる）

第1日目            団体予選1立目（四ッ矢）、個人予選1立目（四ッ矢）  
                         団体予選2立目（四ッ矢）、個人予選2立目（四ッ矢）  
                         個人順位決定戦

第2日目            団体準決勝（四ッ矢）  
                         （団体決勝リーグ進出校決定競射）  
                         団体戦決勝リーグ

#### 6 決勝リーグの組み合わせと試合順

- ア) 決勝立番は予選・準決勝の総的中数の多い方から1・2・3・4・5とする。  
同中の場合は抽選とする。
- イ) 決勝リーグは総当たり1回とする。
- ウ) 試合順は次の通りとし、男子・女子の各対戦を交互に行う。

	第1射場	第2射場
第1試合	1	5
第2試合	3	4
第3試合	5	2
第4試合	3	1
第5試合	2	4
第6試合	5	3
第7試合	4	1
第8試合	2	3
第9試合	4	5
第10試合	1	2

## 7 弓具について

全日本弓道連盟の規定に定める弓具を使用するよう、点検を行う。

## 8 その他の競技規定

その他の競技規定は「全国高等学校体育連盟弓道競技規則」による。

本規定と「全国高等学校体育連盟弓道競技規則」が異なっている場合は、本規定を優先する。

改正内容

(H29)

①「3 競技方法 コ) 弦切れ等の事故が生じた場合には、そのチームのみ2分延長する。→《7分とする》」

②8 その他の競技規定 その他の競技規定は「全日本弓道連盟競技規則」→《全国高等学校体育連盟弓道競技規則》による。本規定と「全日本弓道連盟競技規則」→《全国高等学校体育連盟弓道競技規則》が異なっている場合は、本規定を優先する。

(H30)

③1 会場実施に伴う変更

- ・予選通過を10位タイとする。
- ・補欠や交代した選手の個人戦はなくなる。